

利益をたたき出すトレードルールの作り方

4. 一目均衡表を使う

ここでは、一目均衡表を使う事で、第1章で説明した基本戦略に基づくトレードを行う方法を考えることにします。

4-1. 一目均衡表とは何か

一目均衡表は、「時間」「値幅」「波動」の三大骨子を使って、相場の動きを予測しようとする壮大な相場論です。

この一目均衡表には5つの指標が使われていますが、このセミナーで利用するのは以下の3指標です。

- ◆ **転換線**： 直近9期間の最高値と最安値の平均値
- ◆ **基準線**： 直近26期間の最高値と最安値の平均値
- ◆ **遅行スパン**： 各ローソク足の終値を現在の足を含めて26期間左にずらして描画したもの

また、一目均衡表では、相場に変化が表れやすい数値として、「基本数値」という概念があります。以下がその基本数値です。

単純	9
単純	17
単純	26
複合	33
複合	42
複合	65
複合	76
複合	129
複合	172
複合	200~257

このセミナーでは、**最小の単純数値である「9」**を利用します。

4-2. 転換線・基準線の持つ意味

転換線・基準線は移動平均線ではなく、直近の9と26期間の最高値・最安値の平均値、即ち、中値を表しています。従って、これらの線の傾きが上がったたり下がったりするのは、そ

利益をたたき出すトレードルールの作り方

それぞれの計算期間の最高値もしくは最安値が更新された時のみです。

つまり、傾きの変化が起きるのは、以下の2つのケースとなります。

- ① 実勢価格が直近9もしくは26期間の最高値もしくは最安値を更新したとき
- ② 1本前のローソク足まで、計算期間内の一番古いローソク足が、最高値もしくは最安値をつけていて、次の足が始まって計算期間から外れた時

重視されるのは、当然①のケースですが、①も②も起きていなければ、水平線となるので、一度傾きが生ずれば、重要な高安値の更新があったことが一目瞭然であることが、この線の特徴の一つです。

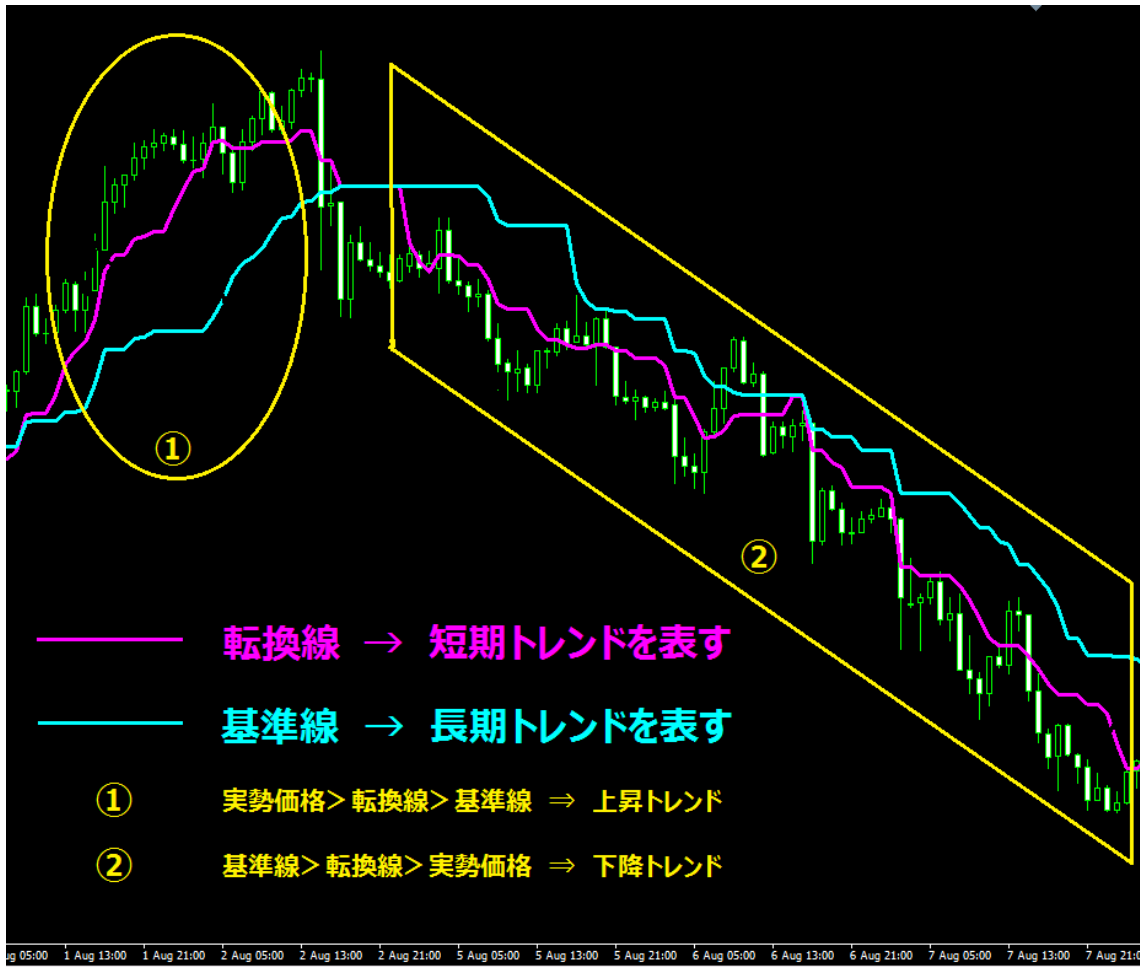
また、移動平均線の傾きが微妙なときでも、これらの線の傾きは相対的に明確に表示されるので、上昇・下降・保合いの判断をやりやすくしてくれます。つまり、傾きが一旦上に向けば、これが上向きか水平の間は上昇トレンドが続いていることを示し、傾きが一旦下に向けば、これが下向きか水平の間は、下降トレンドが続いていることを示します。そして、上記①を伴って、傾きがそれまでと反対方向に変化すると、いよいよトレンド転換になる可能性を示唆してくれます。

更に、これらの線から実勢価格が乖離して推移した後、これらの線まで上昇もしくは下降してくれば、それぞれの期間の半値押し・半値戻しが起きていることが分る事になります。

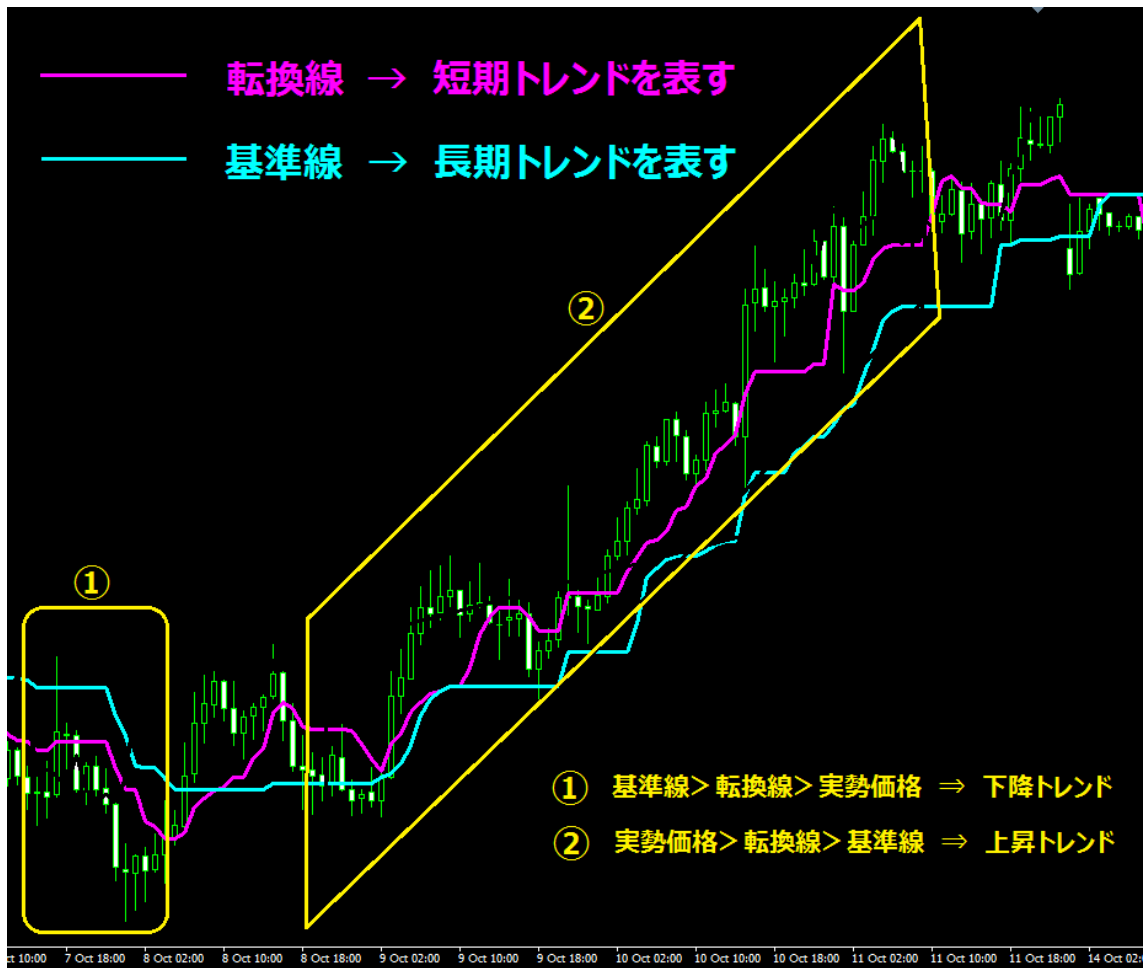
4-3. 転換線・基準線を使った局面の把握

実際のトレードでは、転換線や基準線をそれぞれ短期トレンド、長期トレンドを表す指標として使う事が多いでしょう。また、転換線、基準線、実勢価格の位置関係、傾きを見ることで、長短の移動平均線と同様、現在の局面の判定に使われます。

利益をたたき出すトレードルール の作り方



利益をたたき出すトレードルール の作り方



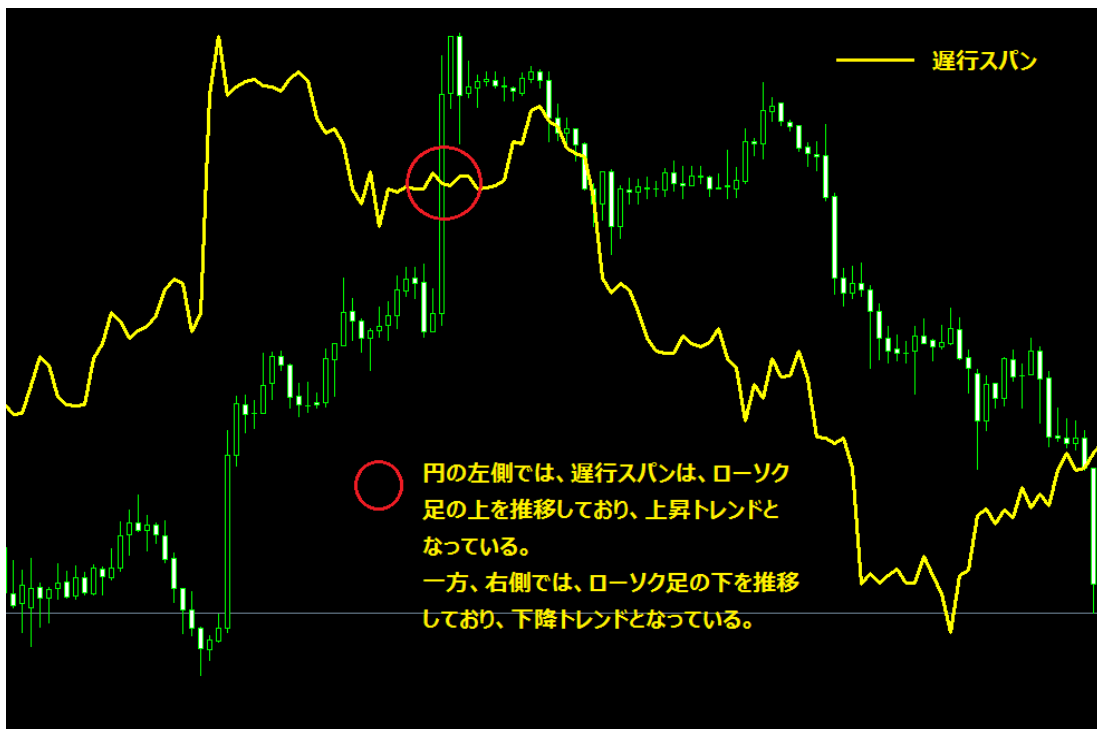
4-4. 遅行スパンとは何か

利益をたたき出すトレードルールの作り方

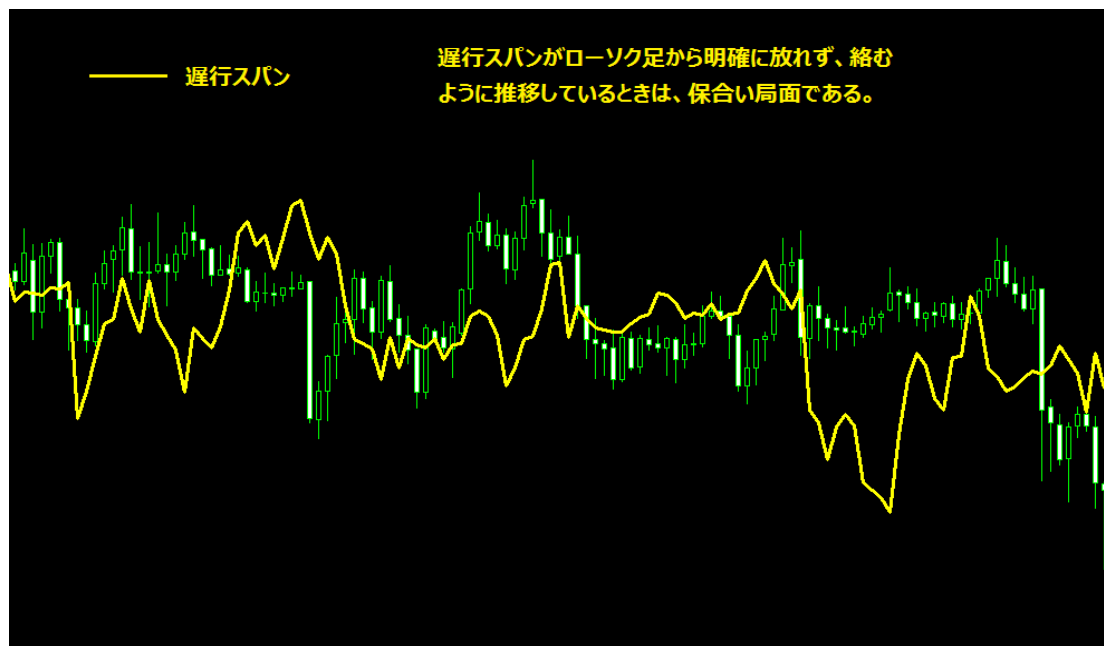
この指標は、現在のローソク足の終値を26期間前に記入し、それを線で結ぶことで描かれます。「現在の終値を26期間前に描くことでわかる事は一体何なのか」と誰しも疑問に思うところですが。

例えば、現在のローソク足の終値が、26期間前のローソク足の終値と比較して高ければ、少なくとも、26期間前から上昇トレンドが発生している可能性が高いと言えます。この場合、遅行スパンは、26期間前のローソク足を「上抜け」している可能性が高いでしょう。

逆に言うと、遅行スパンと26期間前のローソク足との位置関係を見ることで、もし、遅行スパンが上であれば、現在、上昇トレンドが発生している可能性が高いし、逆に、遅行スパンが下であれば、現在、下降トレンドが発生している可能性が高い、ということが分かる訳です。



スタートアップ・トレード・セミナー
利益をたたき出すトレードルールの作り方



利益をたたき出すトレードルールの作り方

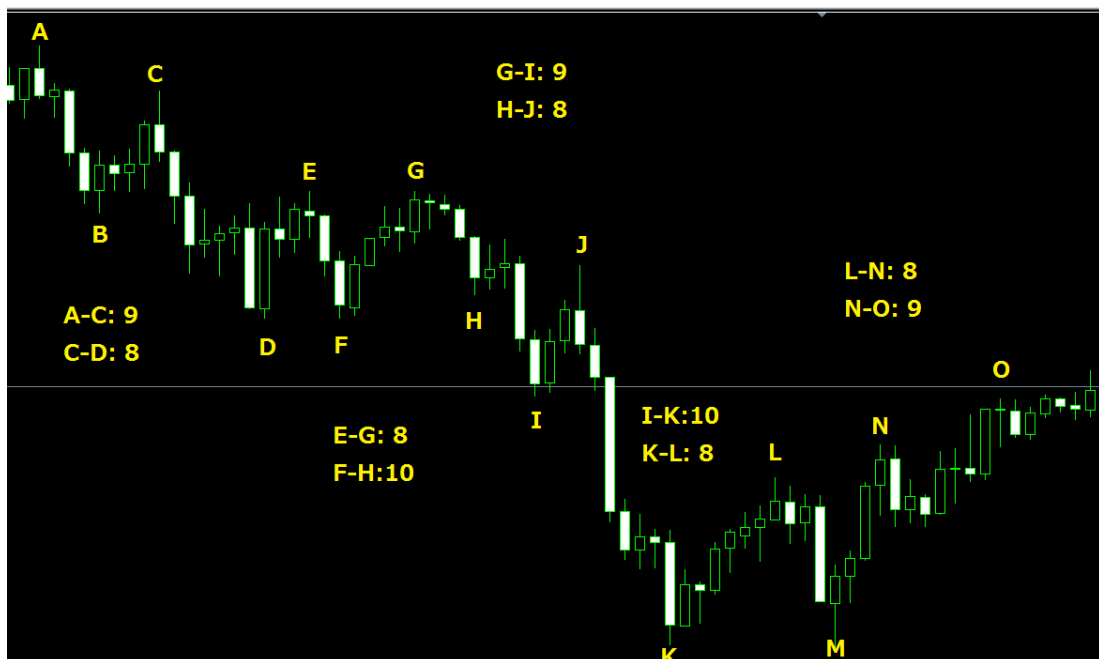
4-5. 周期

第1章で、相場には5つの局面がある事を述べましたが、これらの局面が変わるタイミングには、往々にして時間的な規則性があると考えられます。周期とは、相場の節目から節目までの経過時間の中に見出すことができる、時間的な規則性のようなものです。

例えば、安値を付けてから次の高値をつけるまでの経過時間、あるいは高値から安値まで、高値から高値まで、安値から安値までなどの経過時間などが、ほぼ同じになって相場の局面が推移することがしばしば見受けられます。

一目均衡表では、この周期を見つける方法として、前述の「基本数値」という考え方を使っています。この内、限られた時間内で行うデイトレードで使えるのは、3つの単純数値であり、しかも、9以外の2つの数字は、 $17=9 \times 2 - 1$ 、 $26=9 \times 3 - 1$ ですから、結局、9だけを使えばほぼ事足ります。

下の図は、高値から安値までなどの経過時間をローソク足の本数でカウントしたものです。



利益をたたき出すトレードルールの作り方

基本数値の9本とその前後が経過時間となる事が多いことが分かります。これを知っていれば、例えば直近の高値を付けてから9本前後で当面の安値や戻り高値をつける可能性が高いことが予測できます。

もし、そのようなタイミングに差し掛かっていれば、その付近の支持抵抗線を使って押し目買いや戻り売りを狙う事が可能になります。あるいは、すでに持っている玉の利食いを行うタイミングとして使う事も可能になります。

4-6. 一目均衡表を使ったトレード方法

以上より、トレードの仕掛け方は次のようになります。

《順張り買いの仕掛け方》

- ① 転換線 > 基準線（下にあった転換線が基準線に追いついたところも含む）
- ② 両線が上向き
- ③ 遅行スパン > ローソク足の高値
- ④ 上昇局面の経過時間が9本前後ではない
- ⑤ 実勢価格が直近高値を更新したときに買い

《順張り売りの仕掛け方》

- ① 基準線 > 転換線（上にあった転換線が基準線に追いついたところも含む）
- ② 両線が下向き
- ③ 遅行スパン < ローソク足の安値
- ④ 下降局面の経過時間が9本前後ではない
- ⑤ 実勢価格が直近安値を更新したときに売り

《押し目買いの仕掛け方》

- ① 転換線 > 基準線
- ② 基準線が上向き
- ③ 遅行スパン > ローソク足の高値
- ④ 上昇局面の経過時間が9本前後ではない
- ⑤ 実勢価格が転換線まで下がった時もしくはこれを一旦下回った後、終値で再度上回った時に買い

《戻り売りの仕掛け方》

- ① 基準線 > 転換線
- ② 基準線が下向き

利益をたたき出すトレードルールの作り方

- ③ 遅行スパン<ローソク足の安値
- ④ 下降局面の経過時間が9本前後ではない
- ⑤ 実勢価格が転換線まで上がった時もしくはこれを一旦上回った後、終値で再度下回った時に売り